

環境破壊・乱開発に反対し  
住民主体・地産地消の「再エネ」を進めるために

# 「再エネ」を考えるミニシンポ

東日本大震災・東電福島原発事故は、わが国の電源構成を原発依存から再生エネルギーにシフトさせる転機となりました。しかし、再エネルギーの急激な普及は、一方で多くの問題も引き起こしています。

それは、環境破壊や土砂災害を招きかねない乱暴なメガソーラーや風力発電の建設。大手電力・商社など大企業が、電力消費地から遠い被災地で、公害の不安がある発電事業に勝手便乗的に参入していることにも地域住民が怒りを生んでいます。

今回のミニシンポジウムでは、再生エネルギーをめぐる諸問題を検証し、地域住民が主体的に、かつ「地産地消」を基本にした再生エネルギーのあり方をみんなで考えていきたいと思います。

このミニシンポは2回連続開催で、ZOOM会議により行い、だれでも自由に参加できます。ZOOM会議参加バスコードは、裏面に掲載しています。

**第1回** 11月18日(土)  
13:30~16:00

第1回「検証：再エネをめぐる状況と諸問題」  
問題提起 長谷川 公一氏(東北大名誉教授)  
報告：各地の住民運動から

**第2回** 12月9日(土)  
13:30~16:00

第2回「地域住民主体、地産地消を  
土台にした再エネ発電の取り組みを」  
問題提起「乱開発・環境破壊の再エネへの規制」  
遠州尋美・県民センター事務局次長  
報告：地産地消・住民主体の再エネ発電

長谷川先生急病のため

問題提起① 梶谷 貢さん

「再エネをめぐる県内の諸問題」

問題提起② 遠州尋美さん

「その背景にあるもの」

地域から住民運動の報告

①「環境破壊のメガソーラー発電」

丸森・耕野の自然と未来を考える会  
代表 義高 光さん

②「数字合わせの飛び地メガソーラー発電」

仙台・おいで里山の会会長 佐藤 龍朗さん

③「バイオマス発電」

石巻須江地区の火力発電の建設中止・撤回を求める、環境を守る住民の会 我妻 久美子さん

質疑・討論

主催 東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2丁目5-10 御膳代町ビル3F/305号

電話：022-399-6907 e-mail：miyagi.kenmincenter@gmail.com

エレクトリカル・ジャパンの日本の発電所歴史から

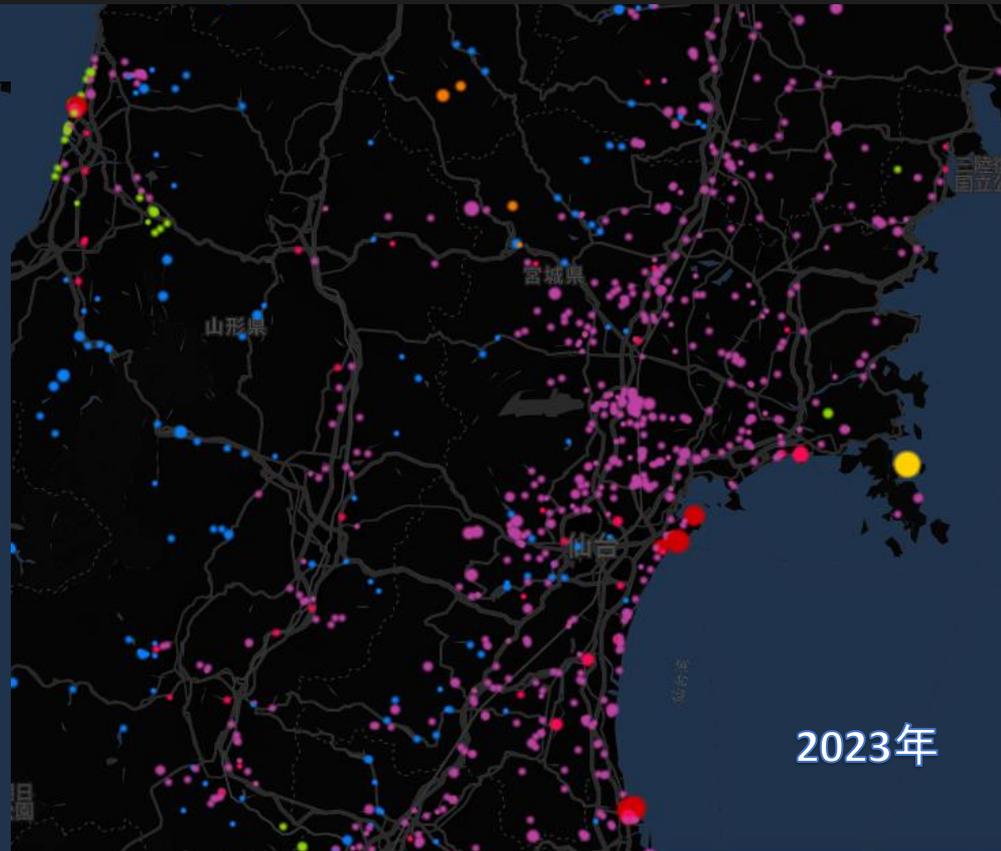
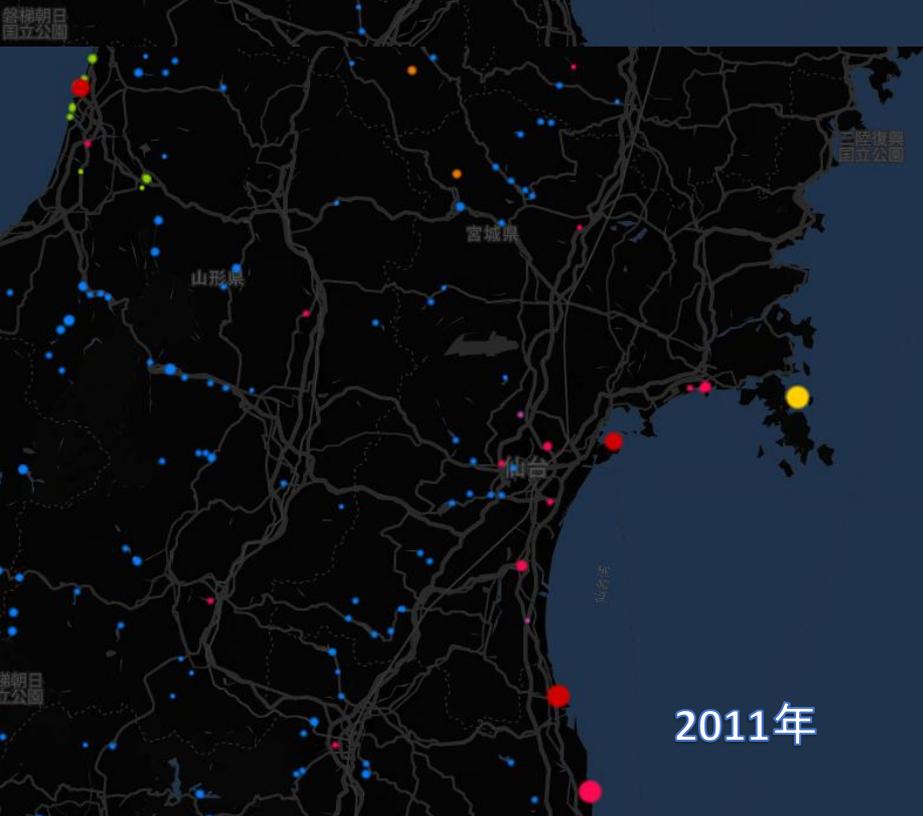
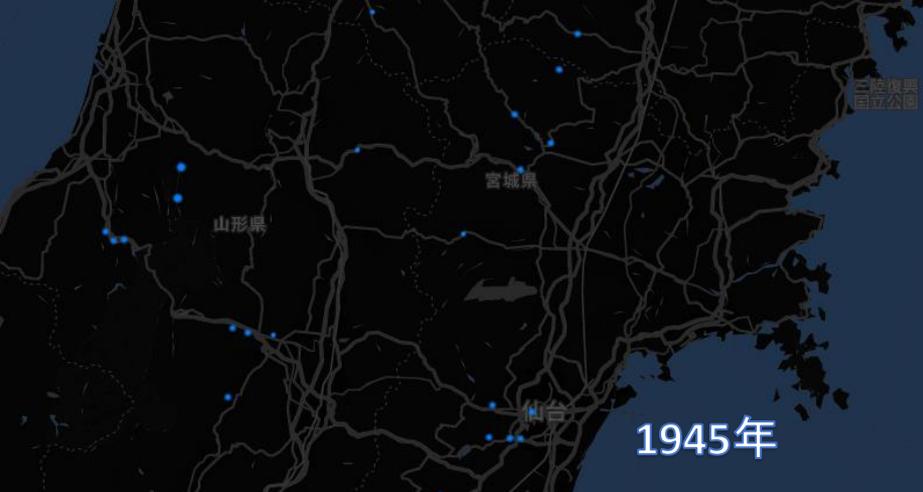
<http://agora.ex.nii.ac.jp/earthquake/201103-eastjapan/energy/electrical-japan/>

戦後間もない水力の主役の時代

高度成長を支えた火力と原子力

(2011.3.11・原発事故そして気候危機)

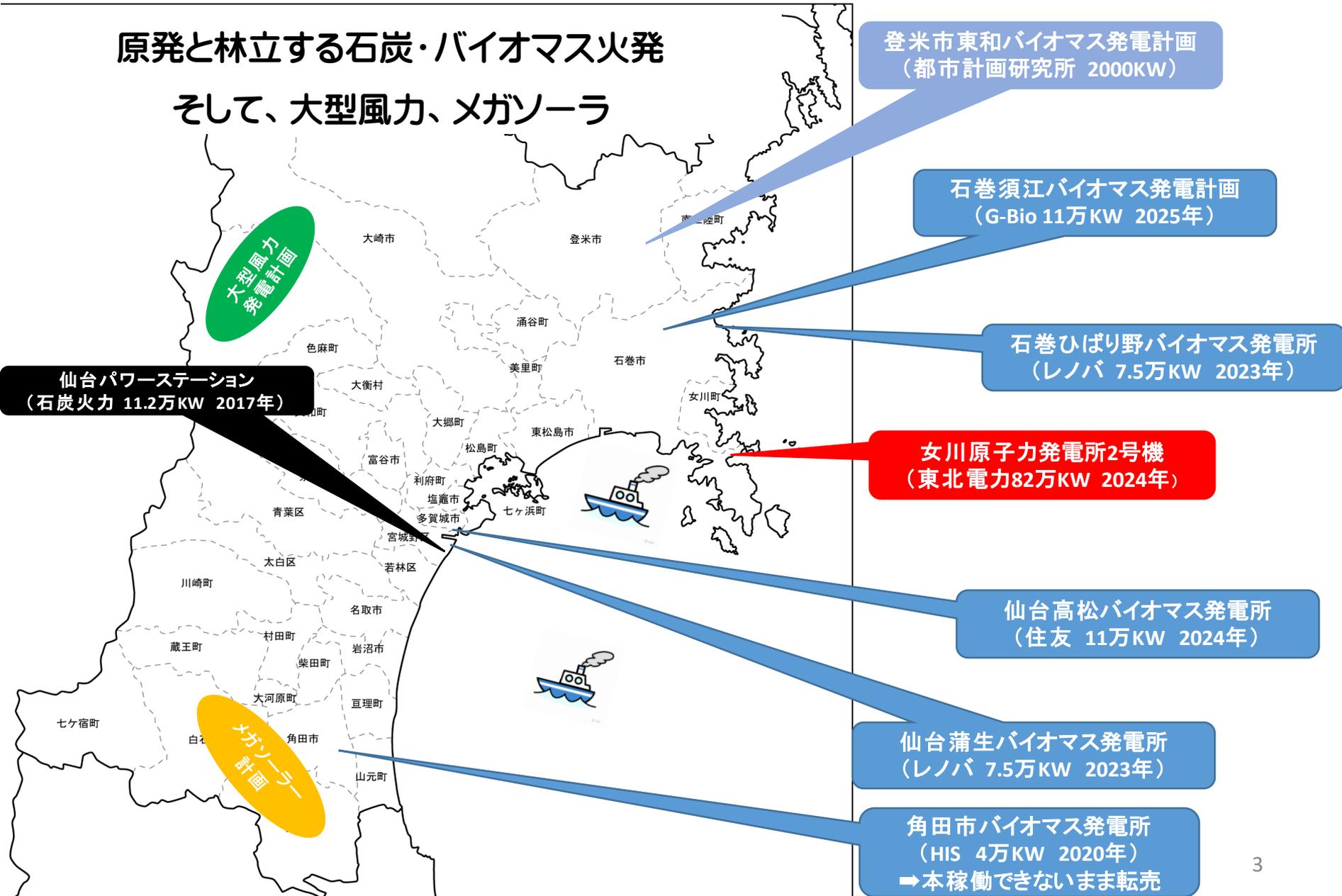
急速に進行するエネルギー転換



# 被災地宮城のエネルギー事情

原発と林立する石炭・バイオマス火発

そして、大型風力、メガソーラ





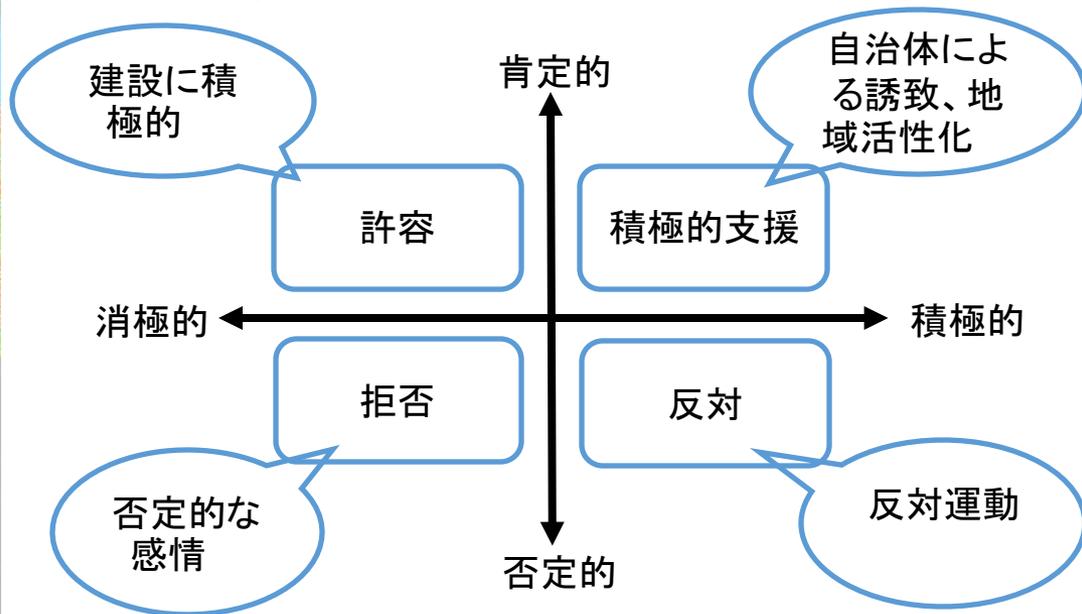
# 2023年1月22日 みやぎ地域・市民電力連絡会年次総会 記念講演

## 「どうすればエネルギー転換はうまくいくのか」 西城戸誠 氏 から

講演資料を借用、一部改変

「やっかいな問題」である再エネ開発に対し

「地域」/地域社会の受容性という視点でみる

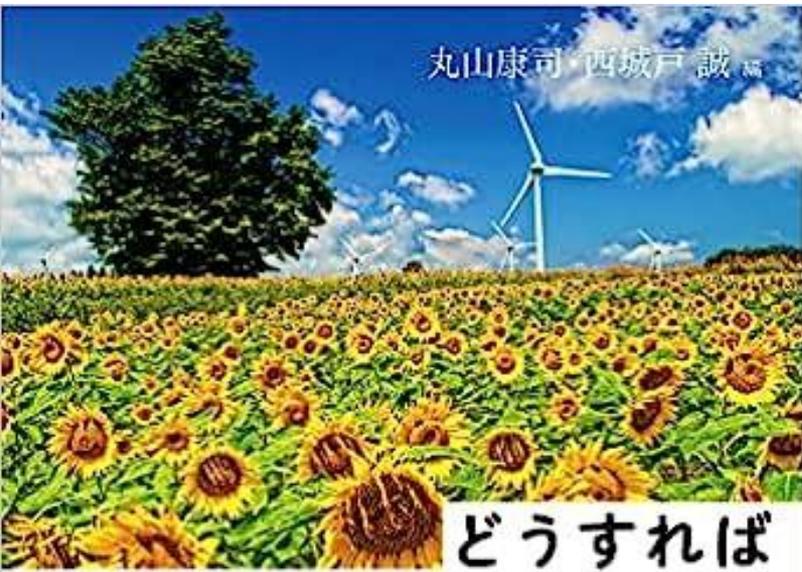


地域的(コミュニティ)受容がポイント

- ・配分的正義(利益が適切に配分されるか)
- ・手続き正義(意思決定に関わる手続き)
- ・信頼(住民と事業者との信頼)

そしてコミュニティ・パワーの醸成

丸山康司・西城戸誠 氏



どうすれば  
エネルギー転換は  
うまくいくのか

持続可能な  
再エネ社会を  
どうつくるのか

エネルギー転換は誰のためになぜ必要で、  
どうすればうまくいくのか。  
再生可能エネルギーの導入に伴って  
引き起こされる、  
地域トラブルなどの「やっかいな問題」を  
社会的にどう解決していくべきなのか。

現場での成功や失敗から学び、実践的に考える。



## 主な改定点

### 1. 2030年度温室効果ガス削減目標の見直し

本編 第3章  
P.35～38

国が目標を26%から46%へ引き上げたことを踏まえ、改めて市域における国の施策による削減量を試算した上で、本市の独自施策による削減量を積み上げ、新たな目標を設定します。

現在の目標

2013年度比

**35** %削減



新しい目標

2013年度比

**55** %削減

### 2. 再生可能エネルギーの導入目標の設定

本編 第3章  
P.40

再生可能エネルギーのさらなる普及に向け、新たに導入目標を設定します。

再生可能エネルギーの種類	2030年度目標[MW]	(参考) 2022年度実績[MW]
太陽光発電	569	365
バイオマス発電	223	35
風力・水力発電	13	12
合計	805	412



# 2023/12/2 14:00~16:00

## 石炭火力より悪い？ 北米の森を燃やす 仙台港のバイオマス発電 カナダからの現地報告

参加費  
無料

2023年 12月 2日 (土) 14:00-16:00

介護老人福祉施設「田子のまち」会議室  
JR仙石線「福田町駅」下車 徒歩2分 (宮城県仙台市宮城野区田子字富里153番)

「環境にやさしい」というイメージがあるバイオマス発電ですが、本当でしょうか？  
実は、燃料の多くは、海外から輸入しています。大規模な発電所を動かし続けるために、国内の森林からの間伐材では到底足りないからです。  
燃料となる木質ペレット生産はカナダからも。現地の豊かな森が伐採されています。呑むした森は、カリブー(トナカイの仲間)やクマなど数多くの野生生物が生息し、生物多様性の宝庫。木々や落ち葉、土壌には、たくさんの炭素が蓄えられています。

仙台港では2つの大きなバイオマス発電所が建設されています。一つはレノバなどが出資する仙台蒲生バイオマスで11月に運転開始予定。もう一つは、住友商事が出資する仙台港バイオマスパワーの発電所です。  
このたび、カナダの森林保護活動をしているミッシェル・コノリーさん、資源政策アナリストのベン・パーフィットさんが来日します。バイオマス発電について、改めて考えてみませんか？



### 【プログラム】 カナダの豊かな森とバイオマス発電

通訳あり

- ・ミッシェル・コノリーさん(Conservation Northディレクター)
  - ・ベン・パーフィットさん(Canadian Center for Policy Alternatives資源政策アナリスト)
- バイオマス発電の現状と課題、仙台港のバイオマス発電について、他

主催：仙台港の石炭火力発電所建設問題を考える会、Fridays for Future Sendai、  
地球・人間環境フォーラム、Mighty Earth、バイオマス産業社会ネットワーク、  
ウータン・森と生活を考える会、国際環境NGO FoE Japan  
問い合わせ先：TEL: 03-6909-5983 (FoE Japan) / E-mail: event@gef.or.jp

### 登壇者プロフィール



ミッシェル・コノリーさん

森林攪乱生態学者で、先住民コミュニティとともに野生生物と気候に配慮した森林施業の構築に取り組んでいる。空いた時間で、プリティッシュ・コロンビア州北部の持続不可能な産業伐採と闘うボランティア主体の地域グループ、Conservation North\*を運営している。



ベン・パーフィットさん

ビクトリア在住のジャーナリストで、社会・経済・環境正義に関する問題を扱う独立系無党派の研究機関 Canadian Center for Policy Alternativesの資源政策アナリスト。水、エネルギー、林業、気候変動に関して、BC州の新聞・雑誌、オンラインの媒体、全国メディアで数多く執筆してきた。森林に関する著作として以下がある。  
"Forest Follies: Adventures and Misadventures in the Great Canadian Forest"  
"Forestopia: A Practical Guide to the New Forest Economy"

### バイオマス発電は本当にエコ？

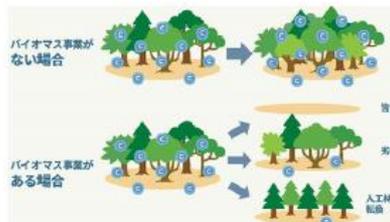
#### ①バイオマス発電はカーボンニュートラル？

バイオマス発電は、木材や農作物残さなどの生物由来の燃料を燃やす「火力発電」です。燃焼段階においてはCO2を発生します。  
※主な燃料:木質ペレット、木質チップ、パーム油、パーム椰子殻(PKS)



木材のCO2排出量は、石炭より多い！

木材 29.6 t-C/1T > 石炭 24.3 t-C/1T



#### ②「炭素の貯蔵庫」である森林を破壊

森林とその土壌には、たくさんの炭素が蓄えられています。森林を守れば、炭素貯蔵量は増え続け、生物多様性も守られます。しかし、森林が伐採されると、長年貯蔵されてきた炭素がCO2となって大気中に放たれてしまうのです。天然林を伐採し、再び木を植えて人工的に森林を再生したとしても、成長には長い年月がかかります。

#### ③輸入燃料が急増!輸入に頼るバイオマス発電

日本のバイオマス発電に使われる燃料の多くは、輸入に頼っています。木質ペレットは、主にベトナムとカナダから輸入していますが、急増しています。



(FoE Japan 「バイオマス発電—7つの不都合な真実」より)